

そぞろごと

與謝野晶子

青空文庫



山の動く日來きたる。

かく云へども人われを信ぜじ。

山は姑しぼらく眠りしのみ。

その昔に於て

山は皆火に燃えて動きしものを。

されど、そは信ぜずともよし。

人よ、ああ、唯これを信ぜよ。

すべて眠りし女をなご今ぞ目覺めて動くなる。

○

いちにんしょう

一人稱

にてのみ物書かばや。

われは女ぞ。

をなご

一人稱にてのみ物書かばや。

われは。われは。

○

ひたひ

額にも肩にも

わが髪ぞほつるる。

しをたれて湯瀧ゆたきに打たるるころもち。

ほとつきため息は火の如く且つ狂ほし。

かかること知らぬ男。

われを褒め、やがてまたそし譏るらん。



われは愛めづ。新しき薄手うすでの玻璃はりの鉢はちを。

水もこれに湛ふれば涙と流れ。

花もこれに投げ入るれば火とぞ燃ゆる。

愁ふるは、若し粗忽なる男の手に碎くだけ去らば。——
素焼どきの土器より更に脆く、かよわく。

○

青く、且つ白く、

剃刀の刃のこころよきかな。

暑あつき草いきれにきりぎりす啼き、

ハモニカを近所の下宿に吹くは懶ものうけれども。

わが油じみし櫛くしげ笥の底をかき探れば、

陸奥紙みちのくがみに包まれし細身ほそみの剃刀こそ出づるなれ。



にがきか、からきか、煙草の味は、

煙草の味は云ひがたし。

甘しあまと云はば、かの粗忽者そこつもの

砂糖の如く甘しとや思はん。

われは近頃煙草を喫のみ習へど、

喫むことを人に秘めぬ。

蔭口に男に似ると云はるるもよし。

唯おそる。かの粗忽者こそいと多さはなれ。

○

「鞭を忘るな」と

ツアラツストラは云ひけり。

女こそ牛なれ、また羊なれ。

附け足して我は云はまし。

「野に放てよ。」

○

わが祖母そぼの母はわが知らぬ人なれど、
すべてに華奢くわしやを好みしとよ。

水晶の珠數にも倦あき、珊瑚の珠數にも倦き、
この青せいぎよく玉の珠數を爪つまぐ繰りしとよ。

我はこの青せいぎよく玉の珠數を解ほぐして、
貧しさに與ともふべき玩おもちや具なきまま、
一つ一つ兒等こらの手に置くなり。

○

わが歌の短ければ、

言葉を省く^{はぶ}と人おもへり。

わが歌に省くべきもの無かりき。

また何を附け足さん。

わが心は魚ならねば^{えら}鰓^もを有たず、

ただ一^{ひといき}息にこそ歌ふなれ。



すいつちよよ、すいつちよよ。

初^{はつあき}秋^{ちひさ}の^{ひちりき}小^{ちひさ}き^{ひちりき}筆^{ひちりき} 簾^{ひちりき}を吹くすいつちよよ。

蚊^{かや}帳^やにとまれるすいつちよよ。

汝が聲に青き蚊帳は更に青し。

すいつちよよ、なぜに聲をば途切すぞ。

初秋の夜の蚊帳は水銀の如く冷きを。

すいつちよよ、すいつちよ。



油蟬のじじ、じじと啼くは、

アルボオス石鹹の泡なり、

慳貪なる男の方形に開く大口なり、

手握みの二錢銅貨なり、

近頃の藝術の批評なり、
誇りかに語るかの若き人等の戀なり。

○

夏の夜のどしや降ふりの雨、

わが家は泥田どろたの底となるらん。

柱みな草の如く撓たわみ、

そを傳つたふ雨漏あまもりの水は蛇へびの如ごとし。

寝汗ねあせの香、かなしさよ。よわき子の齒はぎしり。

青き蚊帳かへるは蛙のどの喉のどの如く脹ふくれ、

肩なる髪は鹿子菜ひるむしろの如く戦そよぐ。

この中なかに青白きわが顔こそ

芥あくたに流れて寄れる月見草なれ。

青空文庫情報

底本：「青鞆 第一卷第一號」青鞆社

1911（明治44）年9月1日発行

初出：「青鞆 第一卷第一號」青鞆社

1911（明治44）年9月1日発行

入力：富田晶子

校正：雪森

2019年4月26日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<https://w>

ww.aozora.gr.jp) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

そぞろごと

與謝野晶子

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>